



再インストールのための HX シリーズ サーバの準備

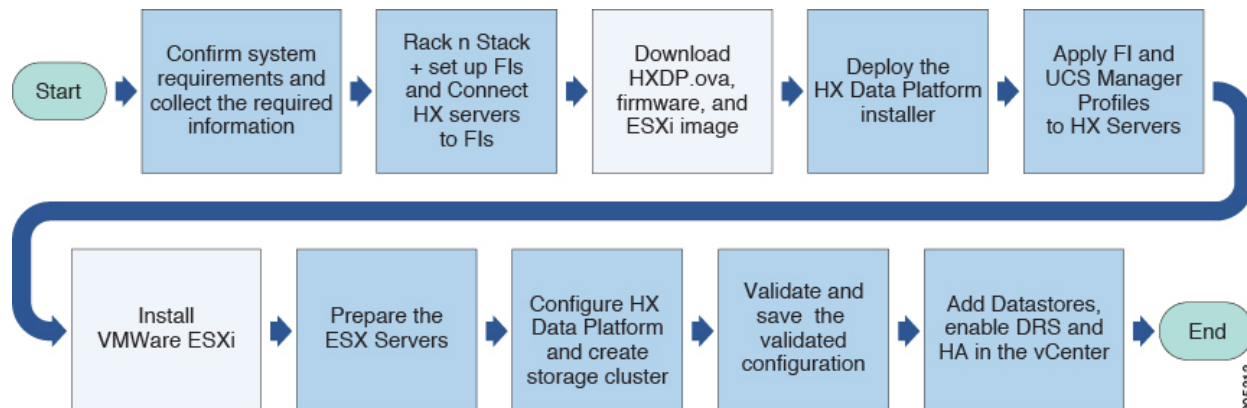
この章は、次の項で構成されています。

- [HyperFlex HX シリーズ サーバの手動での準備に関する概要, 1 ページ](#)
- [VMware ESXi のインストール, 2 ページ](#)
- [再インストール後のステップ, 5 ページ](#)

HyperFlex HX シリーズ サーバの手動での準備に関する概要

この章では、HX サーバを HX データ プラットフォーム ストレージ クラスタにノードとして組み込むことができるように、インストール手順に進む前に、HX サーバを手動で準備するプロセスについて説明します。

図 1: Cisco HX シリーズ サーバの再インストールのワークフロー



これらの作業手順は、B200 サーバをクラスタに追加したい場合や、構築に失敗したためにすべてを再インストールする必要があるなどの事例の際に使用できます。

実行するタスクは基本的に、システムの導入時に工場ですべて事前設定されるものと同じです。システムが事前設定されない場合にのみ必要となる新しいタスクは、VMware ESXi のインストールです。

すべての未構成の HX サーバは、以下の一連のタスクを実行する必要があります。

- 第 2 章にあるインストール用のすべての要件を満たしている必要があります。
- インストーラ OVA をダウンロードします。
- HX データ プラットフォーム インストーラをインストールします
- HX シリーズ用の Cisco UCS Manager を設定します
- VMware ESXi をインストールします。
- 第 4 章の説明に従って、ESX サーバを準備します。



(注) サーバはサポート対象モデルのいずれかで、「要件」の項に示されている要件を満たしている必要があります。

VMware ESXi のインストール

サーバには、サポート対象バージョンの ESX サーバが必要です。サポートされている ESX バージョンのリストについては、『Cisco HX Data Platform Release Notes』を参照してください。

すべてのサーバが、ホスト ESX サーバの設定要件に記載されている必要なハードウェアおよび構成に対応できることを確認します。構成時の設定は、HX データ プラットフォーム プロセス中に適用されます。

各 HX サーバで ESX サーバをインストールします。

ステップ 1 www.cisco.com から、ESX ISO イメージをダウンロードします。

- a) www.cisco.com から、[Support] > [All Software Downloads] > [Products] > [Servers-Unified Computing] > [UCS - Hypervisors and Operating Systems] > [VMware ESXi for Cisco UCS] の順に選択するか、または [リンク](#) をクリックします。
- b) [All Releases] を展開して、サポート対象の ESX バージョンを表示します。
- c) .iso イメージをダウンロードします。
UCS Manager を通じてアクセスできるネットワーク ロケーションを選択します。

ステップ 2 HX カスタマイズされた ESX インストーラの .iso イメージを作成します。次に例を示します。

- a) HX データ プラットフォーム インストーラ VM のコマンドラインにログインします。たとえば、SSH を使用します。
- b) HX データ プラットフォーム インストーラに ESX インストーラ イメージファイルをコピーします。
 - 1 HX データ プラットフォーム インストーラ VM のコマンドラインから、次のパスに変更します。

```
/opt/springpath/install-esxi
```

```
# cd /opt/springpath/install-esxi
```
 - 2 ダウンロードした ESX インストーラ イメージファイルをダウンロードした場所から HX データ プラットフォーム インストーラの場所 `/opt/springpath/install-esxi` にコピーします。たとえば、`scp` などです。
- c) HX カスタマイズされた ESX インストーラの `.iso` イメージを作成します。次に例を示します。

```
# ./makeiso.sh ./cisco-hx-esxi-6.0.ks.cfg
Vmware-ESXi-6.0.0-3380124-Custom-Cisco-6.0.1.2.iso
HX-Vmware-ESXi-6.0.0-3380124-Custom-Cisco-6.0.1.2.iso
```

それぞれの説明は次のとおりです。

`Vmware-ESXi-6.0.0-3380124-Custom-Cisco-6.0.1.2.iso` は、Cisco Web サイトからダウンロードされた `.iso` イメージです。

`HX-Vmware-ESXi-6.0.0-3380124-Custom-Cisco-6.0.1.2.iso` は、HX 固有のキックスタートファイルを使用することで作成されているカスタマイズされた `.iso` イメージです。

ステップ 3 UCS Manager にログインします。

- a) ブラウザを開き、ストレージ クラスタ ネットワークの FI 用の UCS Manager アドレスを入力します。
- b) [Launch UCS Manager] ボタンをクリックします。
- c) プロンプトが表示された場合は、Java をダウンロードして、インストールし、受け入れます。
- d) 以前に設定したログイン クレデンシャルを入力します。ユーザ名 : `admin` パスワード : `Cisco123`

ステップ 4 HX サーバを選択して、KVM コンソールセッションを起動してログインします。

- a) UCSM で、サーバを右クリックし、[KVM Console] を選択します。
- b) KVM コンソールから、F2 を押してログインします。
- c) ログインフィールド間を移動するには矢印キーを使用します。

ユーザ名 : `root` パスワード : `Cisco123`

パスワードを変更した場合は、`Cisco123` がデフォルトのパスワードです

KVM コンソールに移動するには、キーボードの [F] キー、[矢印] キー、およびスペース バーを使用します。変更を保存するには、Enter キーを押します。Esc キーを押すと、パネルが終了し、変更は保存されません。KVM 画面の下部に示されるキーに従います。

ステップ 5 HX サーバの KVM パスに ESX インストーラの `.iso` イメージをコピーします。

ステップ 6 KVM コンソールセッションから、[Virtual Media] > [Map CD/DVD] の順に選択し、Cisco カスタム ISO イメージをマウントします。[Map CD/DVD] オプションが表示されない場合は、仮想デバイスをアクティブにする必要があります。

- a) [Virtual Media] > [Activate Virtual Devices] の順に選択します。

これにより別のウィンドウが開くので、そのウィンドウが別のウィンドウで隠れないように注意してください。そうしないと、プロセスがタイムアウトになります。

- b) [Accept the session] > [Apply] の順にクリックします。
- c) KVM コンソールに戻り、[Virtual Media] > [Map CD/DVD] の順に選択します。

ステップ 7 [Map CD/DVD] オプションから、ESX インストーラ .iso の場所にマップします。

- a) .iso ファイルを選択します。
- b) [Map] デバイスを選択します。
これが完了すると、ファイルがマッピングされた場所に存在することを示すチェックマークが表示されます。マッピングされたファイルのフルネームには ESX ビルド ID が含まれていることに注意してください。

ステップ 8 (注) 再構築する予定のサーバがまだ動作中の場合は、この手順を使用してシャットダウンできます。

HX サーバを再起動します。F12 を押してログインします。
[Forcefully terminate VMs] のチェックボックスをオンにします。

ステップ 9 F11 を押して、再度再起動し、シスコロゴが表示されるのを待ちます。

ステップ 10 ESX サーバの .iso イメージを指すようにブートパスを変更します。

- a) F6 を押します。
- b) [Enter boot selection] メニューから、矢印キーを使用して、[Cisco vKVM-Mapped vDVD1.22] オプションを強調表示します。
- c) Enter キーを押して、選択します。
この再起動によって ESX サーバがインストールされます。

システムは、VMware ESX のフラッシュメッセージに応答します。警告エラーが表示される場合があります。これは無視してください。インストールの終了時にシステムが再起動することを示すエラーが表示される場合があります。このメッセージは無視してください。再起動が行われます。

シスコロゴが表示されるのを待ちます。

ステップ 11 ブートパスを [CiscoVD Hypervisor] に変更します。これは新しくインストールされた ESX サーバです。

- a) F6 を押します。
- b) [Enter boot selection] メニューから、矢印キーを使用して、[CiscoVD Hypervisor] オプションを強調表示します。
- c) Enter キーを押して、選択します。
- d) KVM コンソールを終了します。

ステップ 12 HX データプラットフォームインストーラが新しく準備された HX サーバを識別できるように、サーバの関連付けを解除します。

- a) UCS Manager から、[Servers] > [Service-Profiles] > [root_server] の順に選択します。

- b) 右側のパネルで、[General] タブ > [Actions] > [Disassociate server] の順に選択し、確認ポップアップで [Yes] をクリックします。

ステップ 13 各サーバにこの手順を繰り返します。

再インストール後のステップ

ESX サーバを準備するためのタスクが完了すれば、HyperFlex システムのインストールと設定を続行する準備が整ったことになります。

- HX データ プラットフォームの設定
 - a : ストレージクラスタを設定します
 - b : HX データ プラットフォームの導入を完了します
- vSphere を介した HX データ プラットフォーム プラグインへのアクセス
- ストレージクラスタでのデータストアの追加
- HA ハートビートの設定

